

「犠牲の上に建つあなたの人生」 ～あなたは本当に知っていますか～

創世記1：26～31

私たちは日々の忙しさ、煩わしさの中で様々なことを忘れてしまいます。私たちは自分たちがしてはいけないこともよくわかっています。しかしその忙しさの中で本来私たちがすべきことを忘れてしまって感情的に生きて人を傷つけたら裁いたりしてしまうのです。3年前東北で起きた大震災のことを覚えているでしょうか。このことから「再建」ということを考えたいのです。あなたは自分が今建つ人生にどんな犠牲が流されてきたか知っていますか。ほとんどの人は自分の人生は自分の人生であると思っています。この地上に何人の王様がいるでしょうか。世界には60億人、つまり私たち一人1人が王様になってしまっています。自分の人生をよりよくするために・・・多くの人がそんな風に生きているのではないのでしょうか。（使1：4～8）そのことはアダムとイブの時から始まりました。神様にそれだけは食べてはならないと言われた園の中央の実を食べたとき、アダムがイブのせいに、イブが、そそのかした蛇のせいにしたその時から、正しい良心が死んだのです。私たちは自分のやっていることが正しいことかどうなのか、本当はよくわかっています。だけど私たちはしてはならないことをしてしまうのです。神様から離れてその良心（神様と語り合う場所）が死んだからです。そこが死に自分が王になってしまったのです。義・・・わたしの前に羊を置くという意味です。あのダビデも自分の前に神様を置いていたときには正しく行動することができました。しかしそれを忘れると大きな失敗をしました。相手を見るときに自分と相手だけであると相手を否定してしまいます。アダムとイブの心の中からも神様という王様がいなくなりました。だからそれまで愛していたイブに責任転嫁してしまったのです。良心が死んでしまったので正しい決断ができず感情に流されるようになってしまったのです。だから王様が60億人なのです。そんな私たちの前にイエス様が来て言っています。「私があなたの代わりに痛みを負うから、あなたは私の代わりに正しく生きなさい。そしてあなたが変わえなさい」・・・東北の人たちはあの震災を経験し変わっています。変わっていないのは私たちです。「自分が自分が」です。そして「どうせ」とあきらめています。でも東北の人たちはいつか笑える日が来ると信じています。あきらめていません。震災を通して「復興」ということが語られます。イエス様は私たちが心の一掃によって変えること、それがこの国の「再建」であるといっています。「何で神様が本当にいるのならこの地上を変えないのだ」こういう思いを抱くかもしれませんが、それは変える力を私たち一人ひとりに託したからです。自分の人生の管理者はあなたです。地上の管理者であったアダムが愛するイブに責任転嫁をした、そこから信頼関係が崩れこんな地上になってしまいました。自分のために、ラクをしたいそんな思いから制御もできない燃料をつくり、それが人々を殺すのです。それは自分で自分を制御できない私たちの心です。神様はそんな私たちをいっぺんに壊すようなことはされません。私たちの内側に入って、今、私たちの問題を1つ1つ犠牲を払って取り除いてくれているのです。神様は私たちの心に変化を与えようとしているのです。①あなたに流された犠牲を知る。私たちは冷静にないといけない時に冷静でいれません。自分の人生を自分のものだと思っているからです。そして自分がどうしようと誰も影響を受けないと思っていますが、それは違います。あなたが今いるのは、あなたの前に多くの人の犠牲とあなたのために命をかけたイエス様の犠牲があったからです。それがあなたの人生の土台なのです。私たちが今幸せでいるために多くの犠牲が払われたのです。今、あなた自身も犠牲を払っているかもしれません。でもそのためにイエス様は十字架に架かったのです。犠牲があるとわかれば、その日暮らしのような生き方はしませんし道を外すようなことはありません。私たち自身が見るべきは、自分です。自分の中にいる悪いものを見つけ、神様がつくってくれた良心を再興することです。だから②御言葉に伴う良心。聖書の中に書かれている多くの人の歴史や、東北の震災のことから私たちがもう一度しなくてはいけないことは、私たちの心にある正しい心をきちんと持っているかどうか確認することということです。あなたは自らの人生を、その良心をもって毎日チェックしていますか。「自分の心は汚い。その心が恥ずかしい」そう思うことが良心です。（Ⅱサム24：10）（使24：16）（Ⅰテモ1：18, 19）今、辛いところ痛いところを通っているかもしれませんが、そのことを通して良心が理解できるように神様は語っているのです。神様が辛いところを通らせているわけではありません。私たちが良心を失って自らの人生に生きるようになったその日から私たちは破壊しているのです。自らが願っていることがしてもらえないと暴れるのです。それは裏切られたからです。孤独に進むと自らを守るために人を傷つけてしまうのです。それはあなただけでなく、みんなそうです。その中で神様は一人、あなたを大事にし変えようとします。あなたが変わらなければ変わらないからです。あなたの後に、あなたの歴史を継ぐ人がたくさんいます。でもあなたが種を枯らしたらそれで終わりです。「一粒の麦が地に落ちて死ぬ」とは自分に死ぬということです。そして自分に死んで初めてあなたの中にイエス様が生きるのです。そうすると私たちが忍耐することに意味が生まれます。自分のためでなく、誰かのための忍耐です。だから忍耐が練られた品性を生み、そこから希望が生まれるのです。その努力している姿から多くの人が励まされ、忍耐と努力が多くの人を癒すのです。これがイエス様がした大きな奇跡の力です。ドカンと大きな事ではないのです。大切なことは小さな事です。1つ1つの決断です。その1つが狂うと壊れてしまうのです。だから戻る事が大切です。心が大切です。失敗や罪を犯してしまうことを神様は責めているわけではありません。あなたが人を指さしてしまうその罪は私が背負うから、あなたのその悪い心と闘えと励ましているのです。だから私たちがすべきことは1つ、自分の良心を立て直すことです。感情的に生きてはいけません。あなたが魂の指揮官です。（詩119：66, 67, 71, 72）これがすべてです。私たちが苦しみの中を通るとすれば、それは道はずしていたということかもしれません。間違っていたことがわかって初めて戻れるのです。③あなたの犠牲が供え物。あなたの人生は多くの犠牲が払われています。だから今日から私たちが誰かのために犠牲を払って生きなくてははいけません。赦せないときに赦す、愛せないときに愛する、これが犠牲です。大きな事ではありません。これがイエス様の生き様です。その人の痛みを覆うということです。でもこれはルールではありません。人に言われるからするのでもありません。その時その時することがあるのです。情でやっても意味がありません。イエス様ならどうするかです。（エペ5：2）（ロマ12：1, 2）「この世と調子をあわせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために心の一掃によって自分を変えなさい」（2）これが再建です。私たちのために払われた犠牲を知り、私たちの正しい良心を再建していきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）